

ノンテクトニック断層 識別方法と事例

2015年3月23日 技術アドバイザー 石井 正之

表記の本が出版されました。ノンテクトニック断層研究会を組織し10年以上にわたって資料整理と編集を行ってきた成果です。

元株式会社ドーコンの永田秀尚氏(現有限会社風水土)、元地質研究所(現株式会社ドーコン)の田近 淳氏、地質研究所の廣瀬 亘氏が執筆しています。

地質調査では地すべり運動なのか、もともとの地質構造的なずれ(断層)なのかの判断に迷うことがあります。この本を読めばすっきりと判断できると言うわけにはいきませんが、少なくとも構造運動によらない断層についての基本的な考え方、見方、具体的事例を知ることができます。

特に、第2章では、斜面変動、多重山稜形成、バレーバルジング、軟質な第四紀堆積物、地震動、火山活動、テクトニック断層のノンテクトニック断層への転化、地盤構成物の体積変化、陥没やダイアピルなどについて留意点を述べています。

目次は次のようになっています。

まえがき

第1章 ノンテクトニック断層とその研究

第2章 形成要因から見たノンテクトニック断層とその識別

第3章 事例：重力性断層

第4章 事例：地震動による断層

第5章 事例：火山活動による断層

第6章 事例：その他の要因による断層

第7章 課題と展望

あとがき

我々が扱う自然には様々な現象があり、その形成過程を十分に考える必要があることを教えてくれる本です。